2024 年 12 月 13 日

故保屋野良治君の追悼・忘年会

宮原 豊（9 組）

令和 6 年（2024）の年の瀬に近い 12 月 11 日（水）、去る 8 月に不帰の旅人となった保屋野良治君（9 組）を偲ぶ会を開催しました。

街は忘年会ムード、店もクリスマスの飾り付けの中、故人と親しくしていた 9 組＋αの 7 人が参加してのカラオケ忘年会となりました。久しぶりのカラオケでしたが、理由があります。保屋野君は東京に移ってきてから 65 期同期会や 9 組の会合に積極的に参加してくれました。これは過去の集合写真で出席率の高さを証明していますが、二次会に行っても自ら積極的に歌うことはなかったのです。ところが、ここ数年のことですが、どういう心境の変化か自らマイクを握るようになったのです。このことは 65 期ホームページの追悼文（10 月 13 日）に紹介しました。それで久しぶりにカラオケ会となりましたが、参加者の選曲は「別れを偲ぶ」にふさわしいもので、あっという間の 3 時間でした。最後に、保屋野君が最晩年にチャレンジしていた「薔薇のオルゴール」（前川清）を、牧野泉君（9 組）が披露してくれました。この曲は歌詞も曲も素晴らしく、難しいけれど名曲です。保屋野君もあの世から一緒に歌ってくれたと思います。

去る 10 月に「追悼文」を書きそびれていた赤尾晴夫君と塚田道明君（いずれも 9 組）が、ここに追悼文を寄せてくれました。

赤尾晴夫君：

高校在学中は保屋野君と親しく話した記憶があまりなく、保屋野君の印象は「格好良く理科系で成績が抜群」というものでした。彼と親しく話をさせて貰ったのは、お互い 60 才の後半になり、東京での「9 組+αの集まり」からと思います。

この集まりは二次会で良くカラオケに行ったのですが、最初の頃は歌わなかった保屋野君がすっかり歌い慣れた保屋野君に変身した姿を思い出します。今

回、保屋野君の写真を囲み、カラオケをしながら皆で追悼させていただきました。

保屋野良治君、今までありがとう。ゆっくり休んで下さい。合掌

塚田道明君：

保屋野君とはクラス（9 組）は同じでも授業が別々であったため、またお互いが無口であったためか、言葉を交じり合わせた記憶がありません。ただ唯一の記憶は、たまたま昼食時に彼の弁当箱を覗くと、あまりに豪華絢爛で羨ましく覚えたものです。

私が帰国後、同級会（カラオケ会）に参加しましたが、その帰路、歩きながら医者である彼に病気や健康について相談し、時には勇気を貰いました。ある日、私の腹を見て「塚田、夕食後は甘いものは控えろ」のシンプルな言葉は、今でも鮮明に覚えています。ただ、毎年暮れになると実家から送ってくる昔ながらのリンゴの味の誘惑に勝てずに、彼の言葉を守れないのが残念です。

保屋野君ゴメン、合掌

左から　赤尾晴夫、櫻田喜貢穂(7 組)、上原昇(2 組)、丸山隆平、牧野泉、
塚田道明、宮原

以上